

	新潟市教育委員会 平成26年1月 定例会会議録			
日 時	平成26年1月23日(木) 午後3時30分			
場 所	市役所本館6階 第3委員会室			
出席委員 (6名)	齋藤 委員長		欠席委員	
	沢野 委員			
	佐藤 委員			
	吉村 委員			
	織田 委員			
	阿部 教育長			
会議に出席 した職員 (20名)	職・氏名		職・氏名	
	教育次長	渡邊 尚人	総合教育 センター所長	吉原 修英
	教育次長	齋藤 博子	学校支援課長	高橋 恒彦
	教育総務課長	岩名 俊明	地域と学校ふれ あい推進課長	河内 一美
	教育政策監	伊藤 充	生涯学習センタ ー 所 長	三保 恵美子
	教育政策 担当課長	上所 隆	生涯学習センタ ー 次 長	高橋 治
	学務課長	木村 綾恵	中央図書館館長	山川 正士
	施設課長	本間 寿晴	中央図書館 企画管理課長	松原 伸直
	保健給食課長	田中 薫	中央図書館 サービス課長	山下 洋子
	生涯学習課長	鈴木 緑	教育総務課 課長補佐	荒木 宣孝
	教職員課長補佐	多賀 雄二	教育総務課主査	石田 貴宏
その他の 出席者 (名)				

開会	時 刻	午後3時30分
付議事件 (0件)	宣 言 者	委員長
	議案番号	件 名
報 告 (0件)	記 号	件 名
協議題 (2件)	記 号	件 名
		豊照小学校・湊小学校・栄小学校・入舟小学校の 統合小学校の校名について
		地区図書室の一部廃止について

第1 開会宣言

○委員長 午後3時30分開会を宣言する。

第2 会議録署名委員の指名

○委員長 新潟市教育委員会会議規則第11条により、会議録署名委員に沢野委員及び佐藤委員を指名します。

第3 定例会

○委員長 なお、1月教育委員会定例会は議案等ありませんので、これで定例会を閉会いたします。それでは、これより公開の協議会に移ります。

第4 閉会宣言

○委員長 午後3時32分、閉会を宣言する。

第5 協議会

○委員長 「豊照小学校、湊小学校、栄小学校、入舟小学校の統合小学校の校名について」教育政策担当課長より説明をお願いいたします。

○教育政策担当課長 豊照小学校、湊小学校、栄小学校、入舟小学校の統合により、平成27年4月に開校する統合小学校の校名について、協議をお願いするものです。協議いただく前に、地域からの要望の経緯について報告させていただきます。豊照小学校・湊小学校・栄小学校・入舟小学校4小学校統合実行委員会から「日和山小学校」を統合校名の地元案とする要望書が、昨年12月に教育長あてに提出されました。

昨年6月の教育委員会の4小学校統合の決定を受け、地域では8月に4小学校区内のコミュニティ協議会、4小学校保護者の代表、4校校長・教頭、適正配置の検討を行ってきた小学校地域検討会の会長を委員とする4小学校統合実行委員会を立ち上げ、閉校・開校に係る式典や記念事業、校名の検討など統合に向けた準備を開始しました。

統合実行委員会では、校名選定にあたって、校区内の住民、小学生とその保護者から校名案を公募することとし、子どもたちが夢と希望を抱くような校名、地域の環境や特徴などを表すような校名、四つの小学校の歴史と伝統を受け継ぐにふさわしい校名の三つを校名選考基準とし、校名の検討を行いました。校名の公募につきましては、8月下旬から9月までの1か月行い、その結果、応募総数578件、197の校名案が寄せられました。その中から、3案への絞り込みをへて、全会一致で「日和山小学校」を地元案と決定したところです。「日和山小学校」を統合校の校名に採択ということで、12月の要望書の提出となったものです。以上が校名検討の地域での経過です。

統合校の校名につきましては、教育委員の皆様のご同意をいた

できれば、地域の意向を尊重し、要望のあった「日和山小学校」としたいと考えております。本日、校名の決定となりましたら、新潟市立小学校条例の一部改正が必要となりますので、来月の定例会に議案としてお諮りしたいと考えております。

○委員長

今の説明にご質問、ご意見のある方はお願いいたします。

○佐藤委員

応募総数 578 件で、校名案が 197 案というのはどういうことですか。柳都、りゅうと、新潟柳都、日和山、よつば、四ツ葉、四葉とあるようですが、197 案の中で、絞り込んだ校名案の得票が多かったということですか。

○教育政策担当課長

578 件の応募がありました。重複する校名案がありましたので、案とすれば 197 の案となります。そこから、3つの案に絞り込みました。

○佐藤委員

この4案の得票が一番多かったということですか。どのくらいなのですか。

○教育政策担当課長

委員が述べられた3案が上位の応募件数となります。柳都が154件、日和山が45件、新潟柳都が40件、よつばが29件となります。

○佐藤委員

154件の柳都が一番多いのに、なぜ日和山なのですか。

○教育政策担当課長

委員会の中で、柳都、日和山、よつばと3案に絞り込みましたが、柳都については、新潟の新しいイメージがあるとか、あるいは中学校と同じ名前がよいという意見がありました。逆に、柳都という中学校の名前にこだわらず、小学校の独自性を重視することも必要という意見もあったようです。日和山については、歴史的に湊町として栄えてきた新潟にふさわしい名前であるとか、あるいは日和山という地名がこの地域で広く親しまれた名前であるということがありました。よつばについては、四校の小学校が統合して新しい学校になるのでふさわしいという意見が出ています。

そこから、長い歴史と伝統を踏まえ湊町新潟の原点に戻るという観点から、一番多い柳都ではなく日和山がいいということで、全会一致になりました。

○佐藤委員

選考基準の中の最初に、新しい小学校に通う子どもたちの夢と希望を抱くとあります。「日和山小学校」というのが本当に夢と希望を抱くような校名でしょうか。なぜ「日和山小学校」なのか。なぜこの校名を選んだのかという、地元の皆さんの総意をきちんと説明できるようにした方がいいと思います。公募した校名の票数の結果から言えば、154票をとった「柳都」になってしかるべきと思うわけです。それをあえて変えた理由を、地元の皆さんにきちんと説明ができるようにすべきだと思います。「日和山」というのは地域的に分かります。しかし、これが

選ばれたということについて、もう少し理由づけが必要という気がするのです。

○教育政策担当課長

今年4月に開校予定の中学校の場合も、選考基準を明確にして、地域の方から校名案を募り決定いたしました。その際も、投票総数で決めるのではなく、その学校にふさわしい名前を決めていこうということでした。投票総数が一番の校名にしようという前提で進めてはこなかったということです。

○委員長

ちなみに、校名候補を決定した第3回4小学校統合実行委員会はメンバーが何人くらいの委員会ですか。

○教育政策担当課長

統合実行委員会のメンバー構成については説明させていただきましたが、総数で33名から編成されている実行委員会となります。

○委員長

ということは、33名の方が統合する四つの小学校それぞれ大体4分の1くらいずつの方が参加されていると考えていいのですか。

○教育政策担当課長

それぞれの校区のコミュニティ協議会、保護者、4小学校の校長・教頭ということで、同じような人数構成になります。

○吉村委員

教育長に出された要望書の回答は、どのくらいの期限になっていますか。

○教育政策担当課長

回答については、期限は別段ありません。

○吉村委員

今ほどの佐藤委員の話も含めてなのですが、今、課長からお聞きしたお話の中で、そういう理由で「日和山」に決定したということ、特に地域、保護者の方が、今のご説明で納得できるのであれば、委員として何ら疑問はないのですが、経緯をお聞きしていると、全会一致とは書いてあるのだけれども、心配な気がするのです。情報収集が落ちているかもしれませんので、全会一致に至ったというところをもう少ししっかり受け止めた気がするのですが、数字的にも心配な点があるということで、日和山の名称そのものについては、私は特に異論はないのですが、市民の方から説明を必要とされた場合、答えるにしても、用意しておかなければならないという感じがします。

○教育政策担当課長

統合実行委員会のたよりで、校名募集について、578件の応募をいただいたことの周知を図りました。また、応募いただいた校名は、すべて地域の方に回覧でお知らせしております。その上で、さらに絞り込みを行いました。「日和山」を選んだことも、実行委員会のたよりで周知し、理解を図るようにしています。それを経ての要望書ですので、地域の中でも、この校名は理解いただいていると思っております。

○委員長

佐藤委員も吉村委員も同じ気持ちだと思うのですが、一応、周知しましたということを知っているのではなくて、説

得力があるかということに、若干危惧の念を持たれているのではないのでしょうか。一般論として、「柳都」が「日和山」の3倍以上の応募数があったわけです。3分の1以下の応募数の校名が要望として決まったことの説得力についてです。お二人が危惧しているのは、それで地域の方が納得するのかということかと思います。こういう経緯で決まると、周知はしているようですが、今の課長の説明を聞いても、なぜ「日和山」なのかというところがお二人の委員にはあったと思うのです。お答えできる範囲でお願いします。

○教育政策担当課長

私の説明が不足することで、委員の皆さんに危惧の念を抱かせたとしましたら、地域の皆さんに大変申し訳ないと思っております。統合実行委員会の中では、中学の時もそうでしたが、投票総数でいくと、大きい地区の意向が通ってしまうという懸念がありました。票数ではなく、その学校の校名として何がいかという視点で検討しようと議論されております。小学校でも同じように、地域と結びついた学校づくりということで、地域に親しまれた「日和山」を全会一致ということになりました。皆さんが選択されたということです。この校名案で地域の皆さんから理解いただいていると思っております。

○佐藤委員

「柳都」は新しい校名だから、地域性は関係ないでしょう。その説明では、違うと言われますよ。大きい地区の意見ではなくて、「柳都」という校名は新しい中学校の名前です。新小学校の位置は、入舟小学校がよいという意見もある中で、なぜ栄小学校にしたかという理由にもなると思います。小中一貫教育という流れの中で、小学校と中学校が隣接した方が機能的にいいという側面があって、栄小学校の設備を改築して使用することになった経緯があります。本来ならば、柳都小学校・中学校と思うのです。そのほうがイメージ的にもいいと思います。いずれ小中一貫教育も考えていくわけでしょう。

今後の統廃合から考えれば、「柳都」という校名になるのが非常に自然と私は思うのです。「日和山」という名前にすごく違和感を感じます。ただ、地元の皆さんが「日和山」でいいというのだから、異論を差し挟む気はありません。ただ、そうしたことを考えて議論されたのかということです。ただ単に名前だけではないということなのです。その場その場ではなくて、遠い将来における新潟市の教育がどうあるべきかを今後考えていかなければいけない。人口がどんどん減っていくわけですから、統廃合の議論がこれからますます出てきます。その時に、やはり小中一貫教育や小中高一貫教育をアピールしていかなければ、反対の地域要望が出てきて、統廃合は難しくならないかと

思うのです。

そういう観点から、もう少し地元の皆さんによく説明しながらやる必要があるのではないかと思います。「日和山」がいいとか悪いとかという問題ではなくて、意見です。

○教育政策担当課長

これまでの統合校あるいは再編された新しい学校の校名は、地域の皆さんから議論していただき、校名案を出していただき、その校名案を採用してきた経緯があります。そういったところで、今回の中学校、小学校についても、これまで同様に地域の皆さんの意見を伺うために、統合実行委員会で校名案について作業をしていただきました。中学校は、「柳都」という新しい中学校名となりました。小学校は、地域の歴史的な名前、湊町の名前を残したいという思いから、「日和山」と違う校名になりました。小中一貫、あるいは連携教育を目指し、地域からの意見もあった中で、校名については「日和山」と要望が出てきました。そこは最大限尊重してあげたいというのが、担当課長としての思いです。

○佐藤委員

決して課長を責めているわけではありません。意見として申し上げました。

○沢野委員

地域で、一生懸命選ばれたと思います。ただ、佐藤委員が言われるように、今後の方向性も含めた視点で話をしていただき、地域の要望を聞くことは、とても大切なことです。校名を決めるとか、統廃合してどうなるのかということだけで見ていくと、その先につながっていかないと思います。是非そういった視点も地域の方に情報を提供していただきたいと思います。

○織田委員

全く同じ考えです。最初の段階で、中学校との連携についてのご説明がどの程度あったのか。地域の皆さんが校名を選ぶにあたっての最初の段階での考えの中に、連携の観点も入っていたら違ったのではないかと考えてしまいました。もしかしたら、「柳都」の応募数が多かったのは、その辺もあつての地域の皆さんのお考えなのかな？という気もしていたので、私も全く同じところを心配しました。応募数を聞いてさらに不思議な気持ちになりました。しかし最終的には地域の皆さんが熟考の末に、全会一致で選ばれた大事な名前ですので、素晴らしい名前だと思います。

○委員長

最後に確認ですが、154とか45といった公募の数字は、地元の皆さんには公表するのですか。

○教育政策担当課長

検討会のたよりでは、応募数で決めるのではないということでしたので、どの校名に何件の応募がありましたということは、入っておりません。

○吉村委員

遠ければ遠い立場の人ほど、数字を出す、出さない、数字を

出して、「柳都」は 150 代であって、「日如山」は 40 代であるけれども「日如山」に決定したのだということを皆さんに納得していただくのが筋なのだろうという気がします。あまり委員の立場で言うと、実行委員の皆様方にご迷惑をかけてしまうのではないかという懸念もあるので言えないのですが、本来、数字というのは、出して納得してもらうものではないので、それを出さないという自体、少し苦しいなという感じがします。意見です。

○委員長

地元の要望書ですから、これは地域の総意ということで、委員会としてはもちろん尊重いたします。ただ、当然、議事録にも残ると思いますが 154 と 45 の数字に、各委員が若干なりとも違和感を持ったことは事実です。あえて私は今発言しておりますので、よろしくお含みおきいただければ、私はこれ以上申し上げることはしません。

そのほか、この件に関してのご意見、ご質問がおありの方、いかがでしょうか。

○教育長

校名は、応募数に確かに差があると思いますが、地域の中で、こうしたことも加味した上で、小学校の校名は「日如山」と考えられたようです。私はこの校名を尊重します。ただ、先ほど吉村委員がおっしゃいましたけれども、なぜこの校名かという理由をきちんと地域の方にも説明できるようにとお伝えしていけばいいと思っています。

○委員長

この件に関しては以上でよろしいでしょうか。

次に、「地区図書室の一部廃止について」中央図書館企画管理課長から説明をお願いします。

○中央図書館企画管理課長

平成 17 年の市町村合併により、新潟市の図書館も増え、同時に地域の小さい図書室も増えました。地元に着した小さな図書室であり、旧市町村の図書室の実態を反映し、さまざまに制度的にも統一はされておりました。各地区図書室の利用状況や設置効果等を見ながら、図書室の運営のあり方を見直す作業を続けておりました。平成 23 年度末には、利用の少ない岡方及び長浦の地区図書室を、地域の理解を得た上で廃止をしました。

平成 24 年度の事業仕分けにおいて、図書館の管理運営及び地区図書室運営事業がその対象となりました。仕分けの論点として、地区図書室の必要性を検討し、配置計画を見直してはどうかという意見が出され、コスト削減及び効率的運営が求められました。現在も利用状況を見ながら地区図書室の廃止も視野に入れて見直しを行っています。しかし実際に、各区や地元にご相談しても簡単に了解を得られず廃止はなかなか難しい現状で

す。

木崎及び早通の地区図書室がある建物は公民館とコミュニティセンターの併設となっております。その公民館が平成 25 年度末をもって廃止されることが決まっております。これまで図書室の貸出などの窓口業務は公民館職員が担っていましたが、今後、公民館職員が不在となり、窓口業務担当者を新たに配置しなければならなくなります。しかし、利用が少なく効率的でないことから、地元と協議し廃止することで合意を得ましたので、平成 26 年 3 月末をもって廃止したいと思っております。

二つの地区図書室状況について表を作成しておりますのでご覧いただきたいと思っております。図書室の面積，蔵書冊数，年間貸出人数，1 日当たりの貸出人数は表のとおりです。利用が非常に少ないことがお分かりいただけると思っております。

次に，廃止の理由です。先ほど触れましたように，いずれも利用が少ないということと，公民館の廃止により，窓口事務を担当する職員が不在となり，図書館側で新たに窓口担当者を配置するのは難しいという 2 点です。

廃止後の活用につきましては，木崎ではコミュニティセンターの事務スペースとして活用する予定です。その場合，図書室の蔵書は他の施設等に転用し活用する予定で考えております。早通ではコミュニティセンターの事務室を連絡所と分ける必要があるため，コミュニティセンターの事務室として活用する予定です。図書室の蔵書は，一部をコミュニティセンターに移管し，コミュニティセンターのロビーの一角に図書コーナーを設け，コミュニティセンター利用者が自由に読めるよう，地元で管理することを考えております。それ以外の図書については，他の施設等で再利用を考えております。早通及び木崎の図書室は，検索や本の予約もリアルタイムではなく，利用者にとってはオンライン館の豊栄やほかの館と比べた場合，相当な不便があります。2 図書室の利用も全体から見ますと，絶対量が少ないことと，公民館がなくなった後，豊栄図書館が管理することが難しいことから廃止するものです。

図書室の廃止後は，現在の利用者からは少し離れますが，利便性の高いオンラインの図書館，豊栄図書館や他の図書館を利用していただくように広報し，また勧誘に努めたいと考えております。

今後の予定ですけれども，3 月の教育委員会定例会に議案として提出したいと考えております。

次に，裏面の参考資料をご覧いただきたいと思っております。早通と木崎の人口と世帯数の数字をあげておきました。このデータ

を基に、各図書室の年間の貸出人数の人口に対する割合を計算してみました。木崎の場合、0.004人、早通の場合、0.13人となりまして、全市で出した数字、人口が80万、年間の貸出人数が130万人になりますけれども、全市では1.6人となりますので、それと比べると両地区図書室の利用人数は大変少ないことが分かると思います。

次に図書室の利用動向です。どちらも文学、小説の読み物が多いと聞いております。早通では40代から70代にかけて高齢者の利用が多いと聞いております。男女別では1対4で女性の利用が多いと聞きました。木崎についても高齢者の利用が多くなっています。

以上で説明を終わりますので、協議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長

今の説明に対してご質問、あるいはご意見等はいかがでしょうか。

○佐藤委員

豊栄図書館とはどのくらい離れているのですか。

○中央図書館企画管理課長

4kmくらいです。

○佐藤委員

4.5kmくらいだったら歩いて大丈夫でしょうか。徒歩で1時間くらいでしょうか。

○織田委員

コスト削減とか効率的運営を図ろうと思うと、どうしても仕方のないことだというのはよく分かるのですが、図書館を利用される方はわりと高齢の方が多いとのことですね。ということは、若者のように多少遠くても車ですいすいに行けるというよりは、ご自分の足で立ち寄れるところ、地元にあるところでゆっくりの本を読みたいというお気持ちがあると思うので、このような事は残念なことだとは感じました。ただ利用人数がこのように少ないのであれば致し方ないのでしょう。

ただ一般的にこのような傾向は、どこの地域でもあり得るのではないかと思います。公民館分館が廃止になって、職員が専従ではなくなったり、コミュニティセンターになって、指定管理者の考え方によって、図書スペースはなくしてしまうとか。世の中の動きにあらがえない部分があるとは思いますが、高齢者の方がご不便になる部分を、今後、どのようにフォローアップするか、ぜひともそのまま見捨てないで、有効な知恵を授けていただければという切なる希望があります。

○中央図書館企画管理課長

今、お話がありましたように、新潟市も高齢化社会ということで、図書館においても高齢者向けのサービスが近々の課題になっております。そういったサービスについて、住民の利便性を考えて、今後取り組んでまいりたいと思います。

○沢野委員	ちなみに、先ほどの豊栄図書館の蔵書冊数はどのくらいですか。
○中央図書館企画管理課長	豊栄図書館は平成 24 年度末で蔵書が 20 万 1,500 冊ほどあります。
○織田委員	視聴覚資料がたくさんあって、とても素晴らしい図書館です。
○委員長	私は個人的に思うのですが、図書室廃止後の不要になった図書の活用について、廃止になった後の活用について書かれています。廃止の提案なので、そういうことはなかなか書きにくいところがあると思うのですが、この次、例えば織田委員が言われたように、一番近くなる、たくさん蔵書を用意してある豊栄図書館から、年に何回か出張図書館のようなものも視野に入れて、今後、検討するとか一文書かれてあったらいいのではないかと思います、いかがでしょう。新潟市は高齢者を中心にフォローしていくという姿勢があるとおっしゃったのですが、その姿勢がどこにも書いてありませんね。
○中央図書館企画管理課長	今、委員長がおっしゃったようなことについて検討していきたいと思いますが、廃止に至る経緯と効率化ということで、事業仕分けの中で言われていることと相反する部分があります。今すぐできるかどうかということは答えられませんけれども、そういう要望、意見があるということで、こちらでも検討してまいりたいと思います。
○委員長	私が申し上げたいことは具体的なことを書いてくださいという意味ではなくて、この地区に図書室がなくなるという案なのですから、利用されてきたこの地区の方に、いろいろなフォローの体制を検討するという意味です。全く検討しないというのだったら、それでいいですけれども。
○佐藤委員	高齢者の皆さんへのフォローというか、具体的な案は検討しているのですか。
○中央図書館企画管理課長	まだ発表できる段階ではないのですけれども、管内で高齢者人口が増えております。そういったサービスが必要と考えております。
○佐藤委員	具体的な方策を考えていらっしゃるのですか。
○中央図書館企画管理課長	例えば活字の大きい本を今も集めておりますけれども、それをもっと増やすとか、いろいろな形で考えられると思っております。
○佐藤委員	そうではなくて、廃止した図書室の利用エリアのフォローについてです。今回の廃止も利用が少ないという話ですけれども、図書館が遠くなった地域をどのように、例えば車に積んで巡回図書館とか、60 代くらいだったらインターネットを使える方はいっぱいいらっしゃるのです、例えばインターネットで頼んだ本を

まとめて巡回するといったことや、そういうことですよ。歩いていけない方や車を運転できない方のための対策は考えていないのかと。

○中央図書館企画管理課長

寝たきりの方や図書館に来館できない方については、図書を自宅に宅配するサービスをしております。この場合は、図書館に来館できない方に限られております。今後、高齢の方で、例えば最寄りのところに本を届けて、それを取りにきてもらうということも内部で検討しております。けれども、予算が必要になりますので、まだ案の段階で、いつから開始できるという話にはまだなっておりません。

○中央図書館長

補足します。総体としての経費の問題があつて、検討はいろいろとしているのですが、こういう場でお話するのは、なかなか難しい面もあります。例えば今触れた、ハンディキャップのある方への宅配サービスという制度があります。これは図書館が無料で宅配しているわけですが、一般の方にも有料での宅配を希望する方にはそれをしてもいいのだろうかとか、その場合、費用の問題だけではなく手間の問題もありますので、件数がどれくらいあるかという見込みが立たないと難しい面があります。例えば巡回サービス、移動図書館車というもの全国的に見ればたくさん走っておりまして、旧豊栄エリアもかつては巡回していました。けれど、なかなか活用されないということで、2年ほど前に廃止いたしました。白根地区も廃止いたしました。新潟市の大きな流れとしては、合併したことによって各地域で単独であった図書館がネットワークでつながって、80万市民を対象にして図書館サービスができるというメリットがむしろ大きかったようです。どちらがいいのか分かりませんが、そのような動きも出ております。

お金をかけずにできることという、例えば今、団体貸出という制度があるのですが、これを活用して、例えば地域の福祉施設、あるいはコミュニティ施設でもよろしいのですけれども、1か月間、100冊まとめてお貸しするという形で、それを順次入れ替えていくこともできます。その施設が希望されれば、そういうこともできますし、働きかけをこちらから積極的にするとか、そういった方策も考えています。また、図書館以外の、あるいは図書室以外の場所で、予約した本の受け渡しをするといったことも考えております。ただし、どういう場所でどういう形でできるかということとはなかなか難しく、検討はしているのですが、まだ具体的には動いていないところです。

そういったさまざまな検討はしております。いずれ、その辺を具体化していかないといけないと思っております。

○佐藤委員

確かに巡回図書館は意味がないですよ。今はオンデマンドなのです。読みたいときが読むときなのです。どのようにその欲求を満足させるかという手法を考えればいいという話です。図書館長がおっしゃったような、何曜日にはここに本が届いているということです。地域で歩いていけるところであれば一番理想的ですから、それは自分が注文したわけですから、必ず要求があるわけです。商売でいうとダイレクトマーケティングといった手法を使いながら、ニーズを満足させてあげるといった具体的な施策を考えていただければよろしいのではないかと思います。

○織田委員

ずっと前なのですけれども、小学校のPTA教養部で図書管理をしていて、その図書は地域の人がだれでも借りても良かったことがありました。それを私も利用させて頂いてました。地元の小学校のPTA教養部の図書棚に行って、読みたい本があったら貸出簿に書いて、教頭先生に貸出簿と本を見せて許可をいただいて借りて帰り、2週間以内にお返しするといったような手順だったように記憶しています。今の時代に実行できるのかは分からないのですが。

高齢者にとっては、あらかじめ予約してこの本だけ欲しいというよりは、ふらっと行ってながめて、その中から、これはおもしろそうと手にとって、借りてみようかというふうにして借りて帰る。または図書スペースにふらりと寄って、腰を下ろして紐解いてみる。おもしろかったからそのまま借りていこうという形での利用が多いのではとも思います。

利用される方のご不便を少しでも軽減する何か良い方法があったらぜひよろしくお願いします。

○中央図書館企画管理課長

大変いいお話を聞かせていただいたと思います。学校は、校長先生の管理下にありますので、連携や協力がもし可能であれば、そういうことをも検討していきたいと思います。

○委員長

そのほかに。よろしいですか。では、これで協議会は終了いたします。

○委員長

午後4時20分 協議会終了を宣言する。

第6 次回日程

○委員長

次回の日程について説明を求める。

○教育総務課長

2月定例会は2月13日(木)午後2時30分から、3月定例会は3月17日(月)午後3時30分から、4月定例会は4月14日(月)午後4時30分から予定しております。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

署名委員